

子どもの振り見て 我が振り直せ

保育園、幼稚園、小学校の先生方は、子どもの親御さんと会って話すと「親子そっくり！」と思うことが多いようです。顔が…ということではなく、年が幼ければ話し方が、成長すれば考え方がとても似ている印象を受けます。

モデリング…人は身近な人物をモデルにして成長します。ああなりたい、こうなりたいと思ってモデリングをするようになる以前に、身近な人の言葉遣いや動作を自然に真似しながら成長します。

朝の挨拶、食事の準備・食べ方・後始末、電話でのやり取り、スーパーでの会話、テレビニュースへの反応、夫婦の会話、噂話に愚痴…身近な人をモデリングするのです。

「親は子の鑑」です。

「もう、しょうがないわね」「何度言ったら分かるの」「ダメねえ」自分に言われた言葉で友達をけなします。「何とかなるよ」「もう一度やっごらん」「やればできる」自分に言われた言葉で仲間を励まします。

成長するにしたがって視野が広がり、親だけでなく大人全般の公正な態度に関心が強くなります。

勉強して成績さえ良ければ、何をしても叱らない大人…

起きている問題に向き合おうとせず、誤魔化そうとする大人…

弱者相手に偉そうに振る舞い、強い相手にはペコペコする大人…

悪事を見ても見ぬ振りをして逃げ出そうとする大人…

強い者が生き残るために弱い者は滅びてもいいと考える大人…

これらから子ども達は何を学ぶのでしょうか。

建前と本音、裏と表、比較とひいき…などは、厳しい現実社会を生き抜くために人が得た知恵かも知れません。しかし、理想となるモデルを探し近づこうとする時期だけに、親や学校の先生など、身近な大人たちへの期待はずれは大きなショックになります。

いじめをする子どもは大人からいじめを受けているかも知れません。嘘をつく子は大人から嘘をつかれているかも知れません。

子どもに勉強させなければ、親が勉強する姿を見せればいい。物事に積極的に挑戦する子どもに育てなければ、まず親がそうすればいい。物事を愛でる優しい気持ちを持てるようにしたいなら、草花に優しく話しかけながら水をやる姿を見せればいい。

「子は親の鏡」…成果は子どもに現れますよ。